

**10月1日
一般利用
スタート**

ともかぜ振興会館オープン

問 ともかぜ振興会館 ☎857・7110

8月29日(土)、那覇市金城地域に「ともかぜ振興会館」がオープンしました。

この会館は、平成14年に策定された沖縄振興計画において、戦後処理問題の一つとされた「旧軍飛行場用地問題」の解決を図

るため、特定地域特別振興事業補助金を活用して建設されました。

昭和18年から19年にかけて、旧日本軍により那覇飛行場の用地として接収され、地域コミュニティが分散された旧大嶺集落の歴史や伝統、文化などを次世代へ継承し、平和への想いを発信していくことなどを目的としています。

施設整備の基本方針として、「子どもからお年寄りまで、世代を超えた交流の場」、「地域の催しが開催できる地域活動の場」、「地域の伝統・文化を学ぶ学習の場」、「健康増進に寄与し、健康な生活を育む場」となることなどを掲げて、建設が進められてきました。

会館は、多目的ホールや会議室、研修室などを備えており、地域のコミュニティ活動や文化芸術活動の場として個人や団体で利用できるほか、乳幼児健診の会場としても使用されます。地域住民はもちろん、市民のみなさんのご利用をお待ちしています。

施設概要

- 多目的ホール
- 伝統芸能指導スペース
- 会議室 (5室)
- 相談室
- 企画展示室
- ふれあい情報コーナー
- 研修室 (3室)
- トレーニングルーム



interview



ともかぜ振興会
金城 栄一 会長

私は昭和16年に生まれ、2歳まで家族と大嶺に住んでいました。沖縄戦が始まる前の昭和18年、ある日いきなり、住んでいる場所からの立ち退きを命じられたそうです。住民は急いで荷物をまとめて大嶺海岸(イノー)を渡ったと聞かれています。それまでは父は大嶺の海で漁を生業とする漁業者でした。

私たちが住んでいた場所は日本軍の飛行場となり、沖縄本土復帰の際にも本土並みに地主に返されることなく、そのまま国有地となって今の那覇空港として使用されています。

そのような歴史を背景に戦後補償の交

渉を続けた結果、個人補償ではなく特定地域特別振興事業で那覇市保健センターと複合施設を建設することとなりました。「ともかぜ」とはうちなーぐちで「とうむかじ」。「追い風」という意味です。先人の苦しかった思いが私たちの背中を押してくれている気がします。

この会館は、子どもからお年寄りまで多くの人が集まり、交流する人と人をつなぐ場所になればと思っています。ホールや伝統芸能スペースもあるので、ぜひ地元の学生さんたちにも使ってもらい、文化の発信拠点にしていきたいですね。文化を絶やさないことが平和に繋がるのではないのでしょうか。

ともかぜ振興会館は、この金城地域のまちづくりの集大成です。オープンスタートとして、地域のみなさんと更に盛り上げ、地域になくはない施設を目指します。